

助川太郎 + 太宰百合 + 山下topo洋平

guitar piano quena

2016 12月10日(土)

開場 19:30
開演 20:00~

(2ステージ入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)

MC 3,000円 + 2drinks order

CAFE BEULMANS

お問合せ: info.cafebeulmans@gmail.com

TEL: 03-3484-0047

世田谷区成城6-16-5 カロザ 成城2F

イベント日以外 営業時間

cafe time 15:00 -

bar time 19:00 -

火曜日・日曜日定休 イベント日以外

メールでのご予約の場合、必ず当日ご連絡がとれる電話番号をご記載ください。



助川太郎

1973年東京生まれ。
2001年米ボストン、パークリー音楽大学 ギター科卒業。ブラジル音楽を中心に、ジャズのバックグラウンド、尾尻雅弘氏に師事したクラシックギターの要素、エフェクターや特殊奏法を多様化したサウンドデザイン等、様々な要素が混然一体となっている演奏家である。ギター、口琴、エフェクターを併用した三位一体の演奏で、音楽シーンに全く新しい世界観を発信し続けている。ヴォーカリストEMiKO VOICEとのデュオで結成したブラジル音楽ユニット「メロコラソン」では2003年より活動。現在までに5枚のアルバムを発表している。2013年、ソロギタリストとしての活動をスタート。ギター1本の完全独奏によるアルバム "This is guitarist" を発表し、dis kunion ジャズチャートで初登場一位を獲得。「レコード芸術」「現代ギター」「ラティーナ」「CDジャーナル」などの音楽誌、各種メディアに取り上げられ反響を呼ぶ。現在はソロギターでの全国ツアーの他、ジャズ、クラシック、ブラジル音楽、タンゴ、民族音楽、芝居の舞台音楽など幅広いフィールドで演奏活動を展開中である。

太宰百合

ピアニスト、作曲家、アレンジャー
(桐朋学園ピアノ科卒 東京都立大学哲学科卒)
ジャズ、クラシック、ブラジル音楽等のワールドミュージックとボーダーレスな土壌に、独自の美意識とピアノタッチとで色彩感溢れる雄一無二の世界を表現する。作曲、アレンジにおいても色濃く独特の宇宙感を表現。これまでに、ラテンロックバンド「ピンゴボンゴ」でCD 4枚、「ローズソース」でCD 2枚、「太宰百合Sextet」でアナログレコード1枚、チェロ橋本歩とのユニット「Ayuri」でCD 1枚、「Ayuri & Chidori カルテット」でCD1枚、アコーディオンの田ノ岡三郎とスティールパンの伊澤陽一とのユニット「Pi acopan」でCD1枚をリリース。田ノ岡三郎の「夏への扉」、ラテンシンガーのMASAYOの「Cantar」などプロデューサーとしても活躍している。須永辰夫プロデュースのほとんどの作品で、アレンジ、ピアノを担当し楽曲提供もしている。akiko、野宮真紀、青木カレン、のアルバムや、リミックスではクレイジーケンバンド、パフィー、阿川泰子、クラブトン、オレンジペコ、など多数。その他、サイケンジ、大澤誉志幸、sinske、Soffeなどの作品に参加。ミュージカルやお芝居の作曲、演奏も多数でがけており、俳優、声優の壤晴彦と、語りと音楽のCDもリリース。都内ライブハウス等で活躍中。

山下topo洋平

学習院大学哲学科在学中よりプロ活動を開始。ケーナとサンボニーアの故郷南米ボリビアに渡り、世界的マエストロ、エルネスト・カプールやボリビア最高峰のサンボニーア奏者フェルナンド・ヒメネス他、現地の音楽家と共演、南米フォルクローレの真髄に触れる。日本においても多数のミュージシャンと共演し、ライブ活動を精力的に行うかたわら、CDレコーディング、映画音楽など音楽製作へも参加している。南米と日本での様々な音楽家との共演によりケーナとサンボニーアの民族楽器を超えた魅力を見出し、複数のユニットを結成。これまで7枚のリーダーアルバムを発表。その音色と現代的アプローチは「単なる民族音楽という枠を超えた普遍的な魅力に満ちている」(CDジャーナル・レビューより抜粋)と評されている。国際的な評価も高く、2015年は自身のバンド「Tierra Cuatro」が南米ツアーへ招聘された。